

教養教育カリキュラム構築に向けた一考察
- 平成17年度と平成21年度のカリキュラム調査を通して -

劉 卿美

長崎大学大学教育機能開発センター

Curriculum Design of Liberal Education
- the Research on Curriculum of 2005 and 2009 -

Kyonmi YOU

Research and Development Center for Higher Education, Nagasaki University

Abstract

In 2000, the ratio of students who go on to a university accounts for 50 percent of the generation aged 18, meaning 1 out of 2 of the generation is a university student. For the Martin Trow's well-known theory, Japanese higher education is experiencing the transition from "Elite to Mass". In 1991, the Japanese government rolled out the Deregulation of University Act, referring the significant amendments of the Standards for the Establishment of Universities and the School Education Law. As a result, each university was enabled to develop its distinctiveness under its missions and objectives. Meanwhile the dissolution of department of liberal education made difficult to implement liberal education in many universities. This study considered how Japanese universities have set their missions and designed their liberal education since the Deregulation. Based on the research of curriculum of 2005 and 2009, it revealed situation of liberal education of Japanese universities and challenges which they are now facing.

Key Words : higher Education, liberal Education, curriculum design

1. はじめに

長崎大学が平成3(1991)年の大学設置基準の大綱化を受けて教養部を廃止したのは、平成9(1997)年のことであった。同じ年、文系と理系の融合学部として環境科学部が発足し、教養部所属の教員は、新しい環境科学部を含め、既存の学部に分属した。それ以降の長崎大学の教養教育は、全学の全ての教員が担当する、いわゆる「全学出動方式」で実施されることになった。この方式は、全国の多くの大学で取り入れられた実施方式ではあったが、結果的には、教養教育の運営の責任がどこにあるのか、その所在は極めて曖昧なものになった。

そこで長崎大学は平成14(2002)年には、「大学教育機能開発センター」を作り、教養教育の企

画・運営主体とした。大学教育機能開発センターの使命は、「長崎大学大学教育機能開発センター規則」第2条に、「全学教育、教育改善及び大学教育全般の在り方に関する研究を行うとともに、本学の全学教育及び教育改善の実施に関する企画運営を行うことを目的とする。」とあるように、「全学教育」と称するところの長崎大学の教養教育を、「研究」と「運営」の両面から支えるところにある。

現在、長崎大学では「学士力の保証」という観点から、教養教育の実施体制と内容の見直し之急ピッチで行われている。長崎大学は入学してくる学生たちにいかなる資質や能力を備えさせ社会に送りだすべきだろうか。これらを考察するために全国の大学における教養教育カリキ

ュラムを調査することとした。

2. 調査方法

調査対象にしたのは計 22 大学で、具体的には北海道大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学・新潟大学・千葉大学・金沢大学・長崎大学・熊本大学・茨城大学・信州大学・静岡大学・岐阜大学・三重大学・鳥取大学・徳島大学・高知大学・佐賀大学・鹿児島大学・琉球大学である。この調査にあたっては、大学に規模によってそれぞれを3種類に分類し、分析を行った。その内訳は、いわゆる旧帝大学系と呼ばれる大学と、旧六大学系と呼ばれる大学、そしてその他の大学である。本稿では、A 旧帝系大学、B 旧六系大学、C その他大学に分けて論を進めることにする。

調査方法は、平成 17 (2005) 年と 21 (2009) 年の 2 回、これらの大学に対して教養教育のカリキュラム編成を把握できる資料、たとえば教養教育の案内や科目履修の手引などの資料の提供を依頼し、送付された資料を分析する形をとった¹。

筆者は、大学教育機能開発センターの一員として、教養教育の科目を担当し、教養教育の「運営」の一端を担ってきた。今回の研究は、大学教育機能開発センター教員に付託されたもう一つの使命である「研究」によって教養教育を支えることも目的のひとつである。

3. 各大学の平成 21 年度教養教育カリキュラムの概要

3.1 教養教育の目標・目的

表 1-1、表 1-2、表 1-3 は、教養教育の案内や科目履修の手引などに明記された各大学の教養教育の目的・目標を、A 旧帝系大学、B 旧六系大学、C その他大学別に整理したものである。大学によってはホームページ上で公表している場合もあったが、論文の典拠資料とする性格上、

活字で印刷された冊子であること、なかでも教養教育の案内や科目履修の手引などは学生が身近に利用する冊子である点から、これらの資料に限定することにした。

平成 17 年度に関しては、調査対象にした 22 大学中 10 大学、約 5 割の大学の教養教育の案内や科目履修の手引などにおいて、教養教育の目的・目標を確認することができた。具体的には、A 旧帝系大学では京都大学・大阪大学・九州大学の 3 大学、B 旧六系大学では千葉大学・長崎大学・熊本大学の 3 大学、C その他大学では信州大学・徳島大学・佐賀大学・鹿児島大学の 4 大学である。

平成 21 年度に関して、教養教育の案内や科目履修の手引などで教養教育の目的・目標を確認できたのは、調査対象にした 22 大学中 14 大学であった²。平成 17 年度の 10 大学に加え、名古屋大学・新潟大学・金沢大学・岐阜大学の 4 大学の教養教育の案内や科目履修の手引などでも記載が認められた。大学番号上、○をつけて表示した。教養教育の案内や科目履修の手引などに教養教育の目的・目標を記載する大学の割合は、平成 17 年度の約 5 割から約 6 割へと高くなっていった。これは学生に対して分かりやすくすることが必要と考えられた結果と思われる。

これら目標・目的の中からキーワードを選び出し分類したのが、表 2 である。平成 17 年度に関しては、豊かな人間性、課題探求能力、基礎的知識・能力、異文化理解能力が、比較的多くの大学において目的・目標として掲げられ、学生が修得すべき資質・能力として重視されていた。平成 21 年度になると、これら豊かな人間性、課題探求能力、基礎的知識・能力、異文化理解能力に加え、総合的な判断力や幅広い視野、学ぶ意欲、学問への理解、社会に対する理解力を目標・目的に含める大学の割合が増えていることが注目される。

表 1-1 A 旧帝系大学の教養教育の目標・目的

		目 的	目 標	
A 旧 帝 系 大 学	1	北海道大学	—	
	2	東京大学	—	
	③	名古屋大学	—	総合的な判断力と思考力を培う。学生の主体性と、学ぶ意欲を育む。人間性を育むコミュニケーション能力を培う。学部間に共通の基礎的学力を培い、探究心を養う。
	4	京都大学	学生個々人が学問と向き合うことを通して、高い自律性、優れた価値基準、豊かな人間性を獲得すること(学術的教養)。グローバル社会における指導的活躍の基盤となる異文化理解と外国語運用力の修得(文化的言語力)。学術研究の専門家として、また社会における指導的活動の強固な基盤となる幅広い基礎知識・技術・技能の修得(基盤的知力)	—
	5	大阪大学	—	幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育むこと。
	6	九州大学	各学部の専攻教育と互いに補い合いつつ、この(筆者注:大学の)目的を達成する上で基盤となる人間的素養を育み、また各学部の専門分野を学ぶ上で共通する基礎的な能力を培うこと。	高等教育との接続を円滑にし、大学教育への適応を促進する。社会の変化と学問の進展に対応する感性と能力を育成する。学問への理解を深めるとともに、関心の幅を広げ、大学院における学習の意欲を高め、自ら学び取る能力を養う。大学院においてあるいは社会において継続的に学習を進める上で、基礎となる能力を培う。国際社会の一員としての自覚の醸成とその基礎となる能力を養う。

表 1-2 B 旧六系大学の教養教育の目標・目的

		目 的	目 標	
B 旧 六 系 大 学	①	新潟大学	<p>専門教育の基礎を準備し、その探求方法・技能を修得させ、知的関心を培う。専門的な知識を、広い視野や知見の下で総合的・批判的な視点から意味づける能力を培う。多様化した高等学校教育から大学教育への転換・導入教育として、また大学院教育に接続する学士課程教育として、自ら学ぶ能力を培う。国際化や情報化の進展する現代において、外国語運用能力や情報リテラシー(情報を読み解き、運用する能力)について、確かな基礎を涵養する。</p>	—
	2	千葉大学	<p>国際化、高度情報化した現代社会に積極的に参画できる人材の育成を目指して、「幅広く深い教養」「総合的な判断力」「豊かな人間性」という普遍的資質を養うこと。広い視野から学問に対する興味・関心を喚起し、その関心の深化と拡大を通して、学生個々が選択した専門分野の学問的・社会的位置付けを理解する能力を養うこと。</p>	—
	③	金沢大学	—	<p>時代の変化に対応できる基礎的な知識・思考法を身につける。自ら課題を発見・探求・解決する能力を備える。人権・共生の時代にふさわしい感性・倫理観・問題意識を持ち、国際性と地域への視点を兼ね備えて、リーダーシップを発揮できるようになる。</p>
	4	長崎大学	<p>学部の違いを超えて、自らが専攻しようとしている分野の学問体系における位置を正確に理解するとともに、幅広くかつ深い教養を身につけることによって、将来社会人として求められる探求能力と総合的な判断力を培い、併せて豊かな人間性を涵養すること。</p>	—
	5	熊本大学		<p>現代社会を理解するために必要な、社会・文化・人間に関わる基本的知識の習得をはかる。現代社会を理解するために必要な、現代科学に関する基本的知識の習得をはかる。学術研究の一端にふれ、学問に対する興味や関心を高める。自分自身で問題を発見し、それを発展させる能力を育成する。自己を見つめ直し、他人の考えや異なる価値観を理解する能力を育成する。地域や社会に対する関心を高め、幅広い視野を持つよう促す。国際社会に積極的に参加できる外国語運用能力と異文化包容力を育成する。日常的に使い、引き続き自分で発展させることのできる情報処理能力を育成する。</p>

表 1-3 C その他大学の教養教育の目標・目的

		目 的	目 標	
C そ の 他 大 学	1	茨城大学	—	
	2	信州大学	かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人を育成し、専門教育の基礎となる教育を施しつつ、専門教育と連携して、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神とユニークな個性を育成する。	基礎的な学問の成果と文化の継承。信州の豊かな自然、その歴史と文化、人間の営みについての理解の促進。高い倫理性と責任感を持って判断し行動できる、自立した個性の備わった市民の育成。世界の多様な文化・思想を受容と共存に対する理解の促進。科学リテラシーの向上。大学教育における基礎的な能力の育成。専門教育への基礎。
	3	静岡大学	—	—
	④	岐阜大学	科学・学問のさまざまな分野について正しく理解し、多様な知識を身につけること。広い視野を持って自主的・総合的な判断能力を育成すること。豊かな人間性を養うこと。	—
	5	三重大学	—	—
	6	鳥取大学	—	—
	7	徳島大学	大学での学びに適応し、主体的に知的訓練に取り組む態度を養う。社会人としての豊かな人間性と高い倫理観を培う。さまざまな体験を通して、人間力と社会力を身につけ、進取の気風を育む。諸科学の基本的な思考法や言語運用能力などを身に付け、自立的学習の基盤を形成する。複合的な視点から専門分野を理解し、必要な基礎的知識を身に付ける。	—
	8	高知大学	—	—
	9	佐賀大学	民主社会の市民としての幅広く深い教養及び創造的な知性と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。地域社会、国際社会に開かれた大学として、異文化や多様な価値観を理解し、人や自然との共生を推し進める。課題探求能力と情報の分析・発進能力をもった国際的人材を育成する。	—
	10	鹿児島大学	—	自立心と公共心を育み、社会貢献意識を涵養します。思考過程を重視し、多面的視野、総合的判断力、課題探求能力を涵養します。大学での教育を受け入れるための基礎を補い(導入教育)、専門教育への円滑な橋渡しをします。情報処理技術と情報をもつ社会的・文化的な側面について理解し運用できる能力を育みます。国際化が進展する現代社会に適切に対応するため、外国語によるコミュニケーション能力を育成し、異文化に対する理解を深め、相互理解と相互協力を推進します。生涯を通じた心身の健康と機能の増進・維持について、基本的な知識と、実践能力を啓発します。
	11	琉球大学	—	—

表2 学生が修得すべき資質・能力

ワ キ ド	キ ー	A 旧帝大学				B		
		③ 名古屋大学	4 京都大学	5 大阪大学	6 九州大学	① 新潟大学	2 千葉大学	③ 金沢大学
人 間 性	人間性	人間性	豊かな人間性	豊かな人間性	人間的素養		豊かな人間性	
	判断	総合的な判断力と思考法		総合的な判断力		総合的・批判的視点	総合的な判断力	
	視野					広い視野や知見	広い視野	
	基準		優れた価値基準					
	倫理							倫理観・問題意識
	自律		高い自律性					
	自立							
	主体	主体性						
	公共							
	責任							
個性								
教養		学術的教養	幅広く深い教養			幅広く深い教養		
知 性	意欲	学ぶ意欲			学習の意欲	知的関心	学問に対する興味・関心	
	探求能力	探究心			自ら学び取る能力	自ら学ぶ能力		自ら課題を発見・探求・解決する能力
	基礎	基礎的学力	幅広い基礎知識・技術・技能の修得		基礎的な能力	専門教育の基礎を準備し、その探求方法・技能を修得		基礎的な知識・思考法
	学問				学問への理解を深める、学問の進展に対応しうる感性と能力		学生個々人が専門分野の学問的・社会的立場付けを理解	
	創造							
国際性	異文化理解		異文化理解		国際社会の一員としての自覚			国際性
	外国語		外国語運用力		国際社会の一員としての基礎となる能力	外国語運用能力		
理解力	自然							
	社会				社会の進展に対応しうる感性と能力			地域への観点
	人間							人権・共生の時代にふさわしい感性
言語力	コミュニケーション能力							
情報力					情報リテラシー			
健康								

旧六大学		C その他大学				
4	5	2	④	7	9	10
長崎大学	熊本大学	信州大学	岐阜大学	徳島大学	佐賀大学	鹿児島大学
豊かな人間性			豊かな人間性	豊かな人間性	豊かな人間性	
総合的な判断力			自主的・総合的な判断能力		総合的な判断力	総合的な判断力
	幅広い視野		広い視野	複合的視点		多面的視野
		高い倫理性		高い倫理観		
						自立心
						公共心
		責任感				
		ユニークな個性、自立した個性				
幅広くかつ深い教養		教養人			幅広く深い教養	
	学問に対する興味や関心			主体的に知的訓練に取り組む態度		
探求能力	自分自身で問題を見出し、それを発展させる能力	自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神			課題探求能力	課題探求能力
	基本的知識	基礎的な能力		基礎知識		大学での教育を受け入れるための基礎
自ら専攻しようとしている分野の学問体系における位置を正確に理解		基礎的な学問の成果と文化の継承	科学・学問のさまざまな分野について正しく理解し、多様な知識	諸科学の基本的思考法		
					創造的知性	
	異文化包容力	世界の多様な文化・思想の受容と共存に対する理解			異文化や多様な価値観を理解	異文化に対する理解
	外国語運用能力					外国語によるコミュニケーション能力
		自然を愛する			自然との共生	
	地域や社会に対する関心	信州の豊かな自然、その歴史と文化、人間の営みについての理解		社会力		社会貢献意識
	他人の考えや価値観を理解する能力			人間力	人との共生	
		豊かなコミュニケーション能力		言語運用能力		
	情報処理能力	科学リテラシー			情報の分析・発進能力	情報処理技術
						心身の健康

4.2 教養教育カリキュラム

4.2.1 卒業要件単位数

ここでは各大学が前章で見たような教養教育の目標・目的を達成のために、具体的にどのようなカリキュラムを組み立てているかについて見てみることにする。まず各大学が卒業要件として課している単位数、つまり卒業要件単位数（以下文中では「単位数」と略称する）をまとめたものが、図 1-1、図 1-2、図 1-3 である。図中の◆は学部、または学科ないし専攻別の単位数を示す。ただ、学部、または学科ないし専攻間で単位数が同一である場合は、1つの◆で示した。また■は各大学の「平均単位数」であり、数字でも示している。

たとえば図 1-1 の東京大学は、2箇所◆が示されているが、これは文科の単位数が 70 単位、理科の単位数が 76 単位であることを示す。そして 70 単位と 76 単位を平均した 73 単位が東京大学の平均単位数となる。図 1-1 の平均単位数の中で、最多はこの東京大学の 73 単位である。一方、

最小は北海道大学と九州大学の 43 単位であり、両大学の間には 30 単位の開きがある。一方、A 旧帝系 6 大学の平均単位数を平均すると 51 単位となる。同じ計算方法によれば、B 旧六系 5 大学の平均単位数の平均は 33 単位で、C その他 11 大学の平均単位数の平均は 39 単位となる。これは B 旧六系 5 大学の平均単位数の平均が最少であることを示している。

また調査した大学の中で最多の平均単位数は東京大学の 73 単位である。高知大学の 52 単位が続く。C その他大学 11 大学の平均単位数の平均 39 単位からすると、高知大学の平均単位数はそれより 13 単位多いことになる。一方、最少の平均単位数は千葉大学であり、27 単位である。平均単位数が 20 単位台にあるのは、この千葉大学のみである。

大学番号上に○をつけているのは、平成 17 年度から変更があったことを示している。このように、全体の約 8 割の大学で見直しがなされたが、詳細については後述することにする。

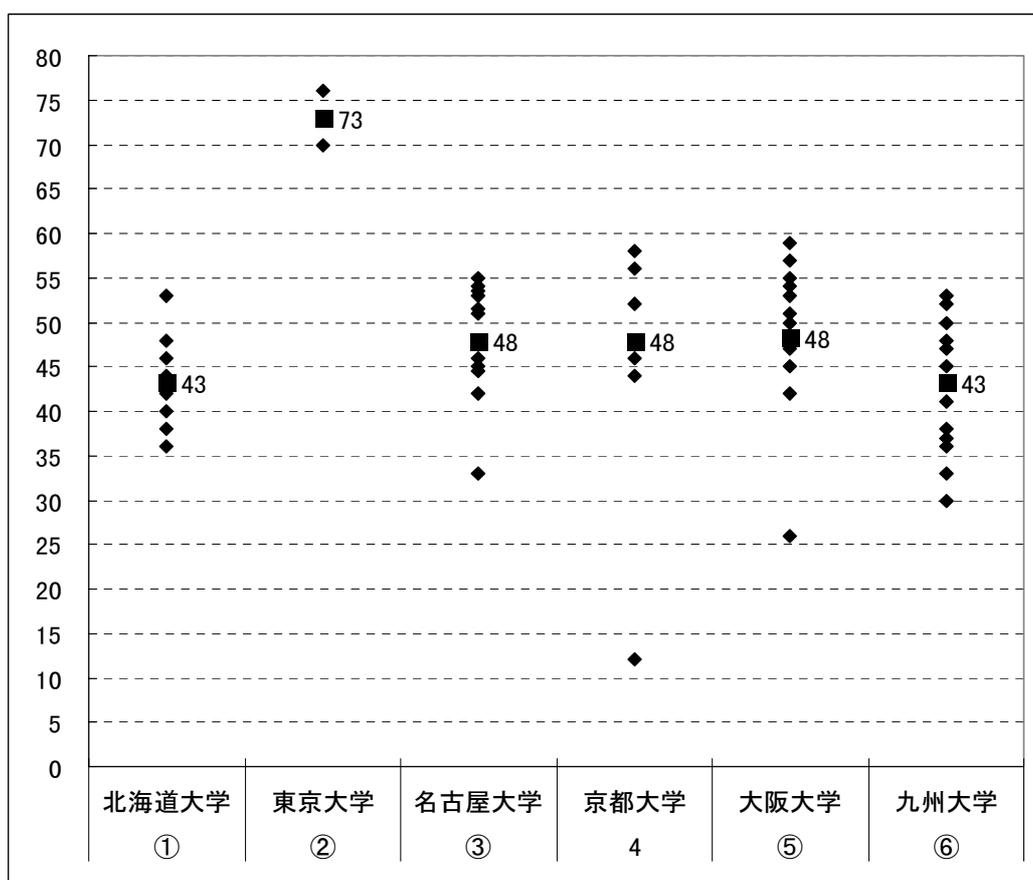


図 1-1 A 旧帝系大学の卒業要件単位数と平均単位数

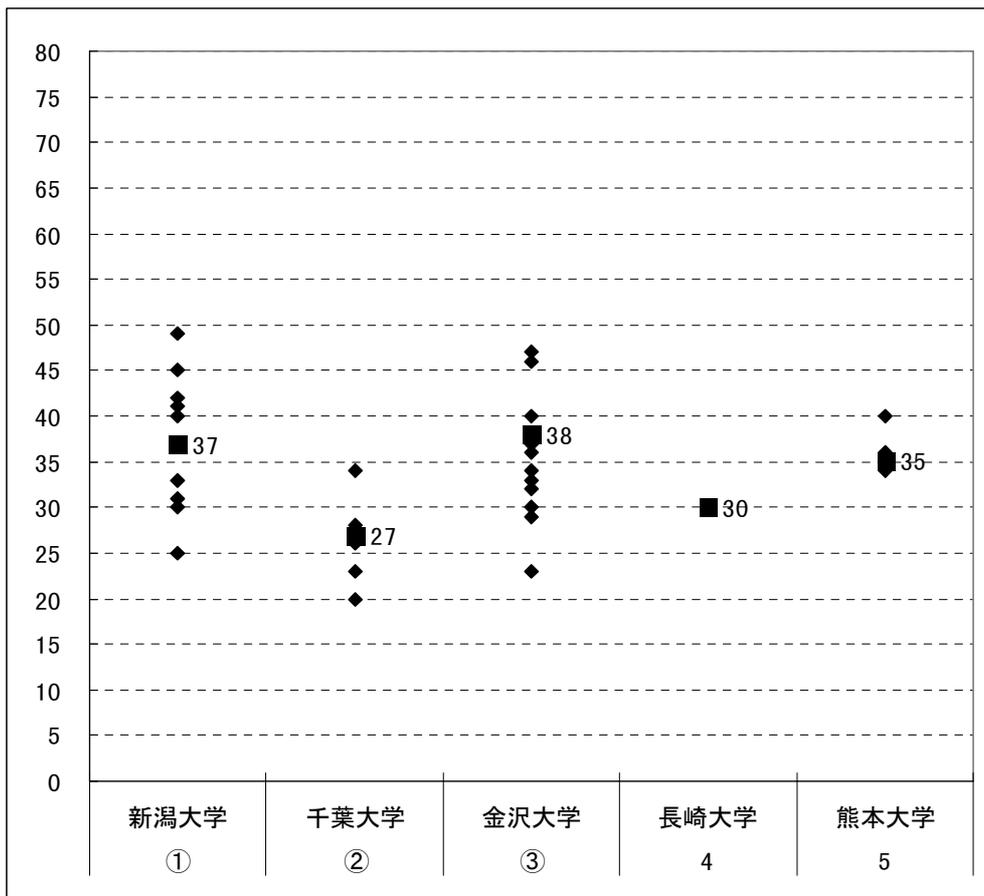


図 1-2 B 旧六系大学の卒業要件単位数と平均単位数

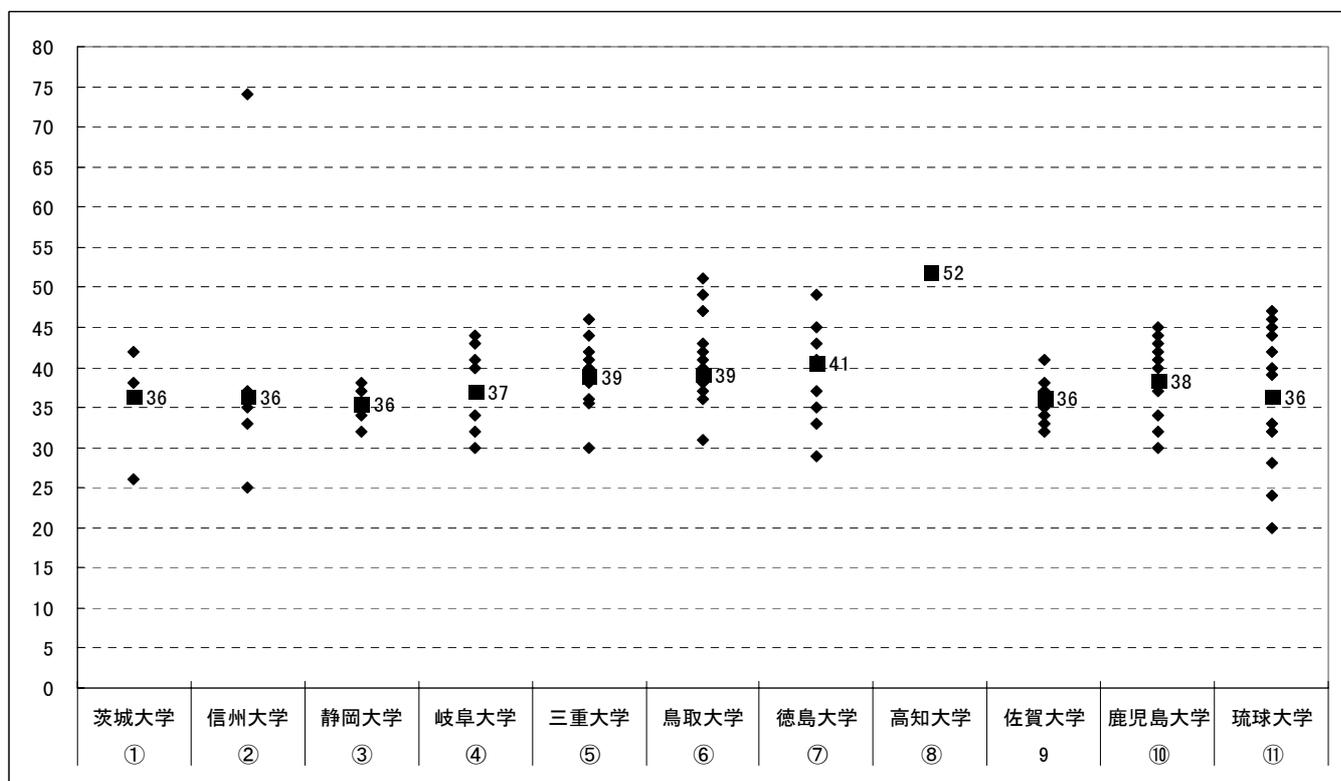


図 1-3 C その他大学の卒業要件単位数と平均単位数

3.2.2 科目別卒業要件単位数

表3 科目別卒業要件単位数

		人文・自然等 分野別、総合	外国語			体育	情報	基礎	その他	合計	
			英語	その他	合計						
A 旧 帝 系 大 学	①	北海道大学	4~16	0~8	4~8	8~16	0~2	0~4	4~22	0~4	36~53
	②	東京大学	18	10~12	8~16	18~28	2	2	12~32	4~8	70~76
	③	名古屋大学	4~10	4~8	6~10	10~18	0~4		0~24	2~4	33~55
	④	京都大学	0~40	0~8	4~8	10~16			0~30		12~58
	⑤	大阪大学	8~16	6~12	0~8	4~16	2	0~4	0~28		26~59
	⑥	九州大学	10~12	0~7	4~5	10~12	2	0~1	0~24		30~53
B 旧 六 系 大 学	①	新潟大学	4~22	2~6	2~6	4~12	1~3	0~2	0~24	0~22	25~49
	②	千葉大学	6~23	4~10	0~6	6~12	0~2	2			20~34
	③	金沢大学	6~12	0~12	0~16	8~16		2	0~20	3	23~47
	④	長崎大学	12~14	6	2~4	8~10	2	2		4	30
	⑤	熊本大学	20~24	4~8	0~8	8~12		2		2	34~40
C そ の 他 大 学	①	茨城大学	12~16	4~6	0~6	6~10	2	2	2~12	2~8	26~42
	②	信州大学	12~27	0~8	0~8	8~16	1~2	0~2	0~12	2~4	25~74
	③	静岡大学	8~12	8~10	0~8	8~16	0~2	0~2		0~4	32~38
	④	岐阜大学	14~18	4~6	2~4	8	2		0~16	2	30~44
	⑤	三重大学	2~16	6	2~8	8~14	2~4	0~2	0~16	10~22	30~46
	⑥	鳥取大学	8~20	6~8	2~4	8~10	0~1	0~2	0~24	2	31~51
	⑦	徳島大学	10~16	4~8	2~4	8~12	0~2	0~2	0~16	2~4	29~49
	⑧	高知大学	14~22	4~12	0~10	4~20		2	14~18	6~8	52
	⑨	佐賀大学	20~24	4~6	0~4	4~8	0~4	0~4		2	32~41
	⑩	鹿児島大学	16~18	0~8	0~4	8~10	2~4	2	0~16	0~4	30~45
	⑪	琉球大学	10~26	0~12	0~10	6~18	0~4	0~4	0~21		20~47

前章で見た単位数がどのような科目から構成されているのか、その内訳を示したのが表3である。

「人文・自然等分野別、総合」科目では、京都大学が単位数を多く配分していた。特に京都大学の場合は、学部・学科ないし専攻によって履修する単位数が、この科目に関して最大40単位の幅があることも特徴的であった。また熊本大学、佐賀大学は、最少の単位数が20単位以上になっており、ほかの大学に比べて高く設定されていたことも注目される。

「外国語」科目においては、A旧帝系大学が、B旧六系大学やCその他大学に比べて、多い単位数を配分している。特にA旧帝系大学は、大阪大学を除く5大学で英語以外の「その他」の外国語科目に対しても全学必修としていた。これに対して、B旧六系大学とCその他大学では

全体の約4割でしか全学必修ではなかった。特に東京大学の場合、「英語」の10~12単位はほかの大学に比べて非常に多い単位数であるが、これに加え東京大学は「その他」の外国語に関しても8~16単位の履修を全学必修としている。

「体育」科目については、約8割の大学で全学必修及び一部必修となっている。「情報」科目の場合も全学必修及び一部必修は約9割に及んだ。ただし、全学必修としている大学に限ると、「体育」は約5割、「情報」は4割を占めるに留まる。

一方、「基礎」科目は、A旧帝系大学ではすべての大学で、Cその他大学では8割の大学で全学必修及び一部必修であったのに対し、B旧六系大学では4割のみが全学必修及び一部必修であったことが特徴的であった。

また大学番号上に○をつけて示していること

から分かるように、長崎大学・熊本大学・佐賀大学の 3 大学を除く、約 9 割の大学において科目別単位数が見直しがされた。

4. 考察

4.1 卒業要件単位数の変化

図 2-1、図 2-2、図 2-3 に、各大学の平均単位

数が平成 17 年度から平成 21 年度にかけてどのように増減したかを■と数字で示した。図 3-1 から分かるように、A 旧帝系大学で平均単位数が減少したのは、北海道大学のみである。反対に東京大学と九州大学は平均単位数が増加している。特に東京大学は 16 単位もの大きな増加をしている。

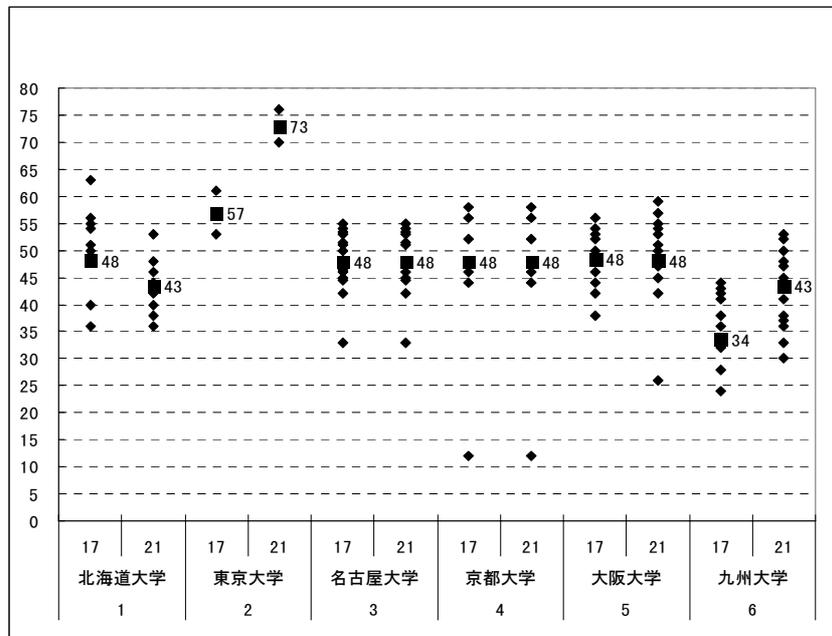


図 2-1 A 旧帝系大学の卒業要件単位数と平均単位数の変化

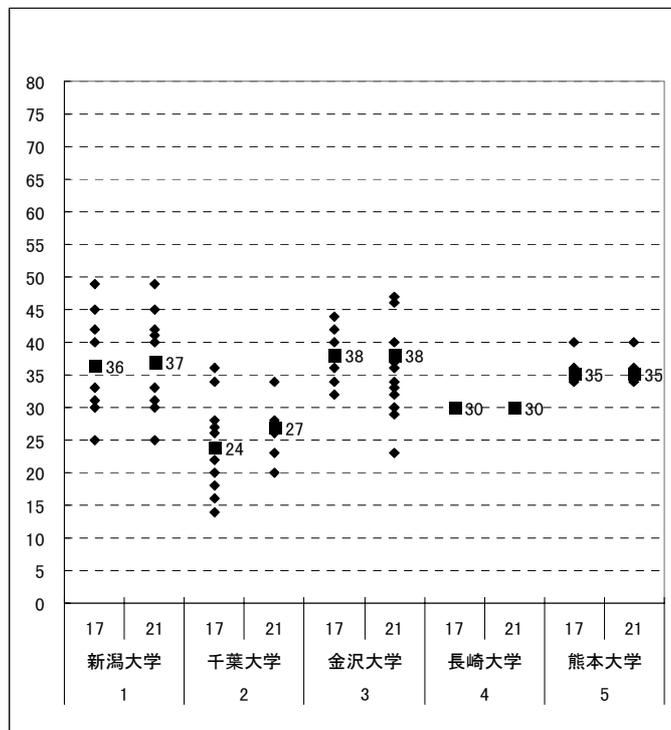


図 2-2 B 旧六系大学の卒業要件単位数と平均単位数の変化

一方、B旧六系大学においては、平成17年度と平成21年度の間に大きな増減はない。22大学中、最小の平均単位数を示していた千葉大学の平均単位数が3単位上昇しているほか、新潟大学が1単位増加していた。またCその他大学の場合は、図2-3で見ると、平均単位数が増加

したのは、茨城大学・岐阜大学・高知大学の3大学である。反対に減少したのは、信州大学・静岡大学・鳥取大学・徳島大学・鹿児島大学・琉球大学の6大学を数える。ただし増加・減少いずれの場合も高知大学を除き、多くの大学が36～39単位に揃ってきたことも注目される。

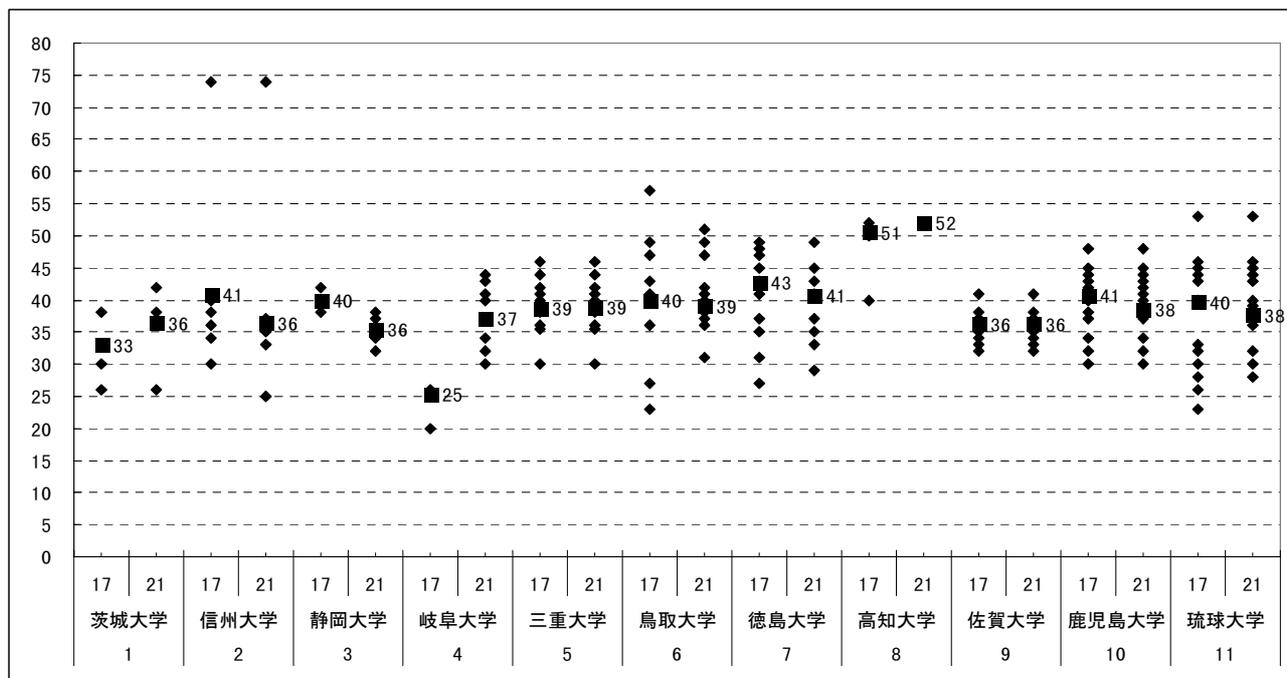


図 2-3 C その他大学の卒業要件単位数と平均単位数の変化

4.2 科目別卒業要件単位数の変化

平成17年度と平成21年度の科目別に履修する単位数を各大学別にまとめたものが表4である。平成17年度に比べて単位数が減少した場合は△で、増加した場合は○で表示した。また学部、または学科ないし専攻によって減少したり増加したりした場合は、どちらの表示もしていない。

この表から分かるように、北海道大学の場合は「人文・自然等分野別、総合」科目と「外国語」科目の単位数が減少していることが分かる。一方、東京大学の場合は、「人文・自然等分野別、総合」科目の単位数は減少しているが、「外国語」と「基礎」科目の単位数が大きく増加した。ま

た大阪大学は「外国語」科目と「基礎」科目の単位数は減少したが、「人文・自然等分野別、総合」科目の単位数は増加している。また九州大学も「体育」と「情報」科目の単位数は減少したが、「人文・自然等分野別、総合」科目と「基礎」科目の単位数が増加している。

△と○の数を表5に纏めてみた。全体的な傾向としては「外国語」科目、中での「英語」科目の単位数が大きく増加していることが見てとれる。一方、英語以外の「その他」の外国語科目を含め、ほとんどの科目の単位数が減少の傾向にあった。なかでも「体育」科目は、減少傾向が顕著であった。

表 5 科目別卒業要件単位数の増減

	人文・自然等 分野別、総合	外国語			体育	情報	基礎
		英語	その他	合計			
○	5	7	2	6	2	2	6
△	8	—	3	5	5	2	5

表 4 科目別卒業要件単位数の変化

		年度	人文・自然等 分野別、総合	外国語			体育	情報	基礎	その他	合計		
				英語	その他	合計							
A 旧 帝 系 大 学	1	北海道大学	17	6~18	0~8	4~8	10~16	0~2	0~4	0~30	0~2	36~63	
			21	△4~16	0~8	4~8	△8~16	0~2	0~4	4~22	0~4	36~53	
	2	東京大学	17	25	6	6~8	12~14	2	2	10~20		53~61	
			21	△18	○10~12	○8~16	○18~28	2	2	○12~32	4~8	70~76	
	3	名古屋大学	17	4~10	4~8	6~10	10~18	0~4		0~24	2~4	33~55	
			21	4~10	4~8	6~10	10~18	0~4		0~24	2~4	33~55	
	4	京都大学	17	0~36	0~8	4~8	10~16			0~28		12~58	
			21	0~36	0~8	4~8	10~16			○0~30		12~58	
	5	大阪大学	17	6~8	6~12	4~12	12~20	2	0~4	4~28	0~6	38~56	
			21	○8~16	6~12	△0~8	△4~16	2	0~4	△0~28		26~59	
	6	九州大学	17	8~10	0~7	4~5	10~12	3	1	0~20		24~44	
			21	○10~12	0~7	4~5	10~12	△2	△0~1	○0~24		30~53	
B 旧 六 系 大 学	1	新潟大学	17	4~22	0~6	0~8	4~10	0~3	0~2	0~28	6~22	25~49	
			21	4~22	○2~6	2~6	○4~12	○1~3	0~2	△0~24	0~22	25~49	
	2	千葉大学	17	4~26	0~8	0~8	4~10	0~2	0~2			14~36	
			21	6~23	4~10	△0~6	○6~12	0~2	○2			20~34	
	3	金沢大学	17	12~24	0~4	4~8	8			0~22		32~44	
			21	△6~12	○0~12	0~16	○8~16		○2	△0~20	3	23~47	
	4	長崎大学	17	12~14	6	2~4	8~10	2	2		4	30	
			21	12~14	6	2~4	8~10	2	2		4	30	
	5	熊本大学	17	20~24	4~8	0~8	8~12		2		2	34~40	
			21	20~24	4~8	0~8	8~12		2		2	34~40	
	C そ の 他 大 学	1	茨城大学	17	14~20	4~6	0~8	6~12	2	2		2~10	26~38
				21	△12~16	4~6	△0~6	△6~10	2	2	○2~12	2~8	26~42
2		信州大学	17	14~24	0~8	0~8	8~16	2	2	4~28	2	30~74	
			21	12~27	0~8	0~8	8~16	△1~2	△0~2	△0~12	2~4	25~74	
3		静岡大学	17	16	8	6	14	2	0~2		0~2	38~42	
			21	△8~12	○8~10	0~8	8~16	△0~2	0~2		0~4	32~38	
4		岐阜大学	17	12~16	4~6	2~4	6~8				2	20~26	
			21	○14~18	4~6	2~4	○8	○2		○0~16	2	30~44	
5		三重大学	17	8~16	0~6	2~8	8~14	2~4	0~2	0~16	6~16	30~46	
			21	△2~16	○6	2~8	8~14	2~4	0~2	0~16	10~22	30~46	
6		鳥取大学	17	8~20	6	0~2	6~10	0~1	0~2	0~32	2	23~57	
			21	8~20	○6~8	○2~4	○8~10	0~1	0~2	△0~24	2	31~51	
7	徳島大学	17	12~22	4~8	2~4	8~12	2	0~2	0~16	1	27~49		
		21	△10~16	4~8	2~4	8~12	△0~2	0~2	0~16	2~4	29~49		
8	高知大学	17	11~18	4~12	0~10	6~20	0~2	1~3	10~13	3~9	40~52		
		21	○14~22	4~12	0~10	△4~20	△	2	○14~18	6~8	52		
9	佐賀大学	17	20~24	4~6	0~4	4~8	0~4	0~4		2	32~41		
		21	20~24	4~6	0~4	4~8	0~4	0~4		2	32~41		
10	鹿児島大学	17	16~20	0~8	0~4	8~12	2~4	2	0~16	0~4	30~48		
		21	△16~18	0~8	0~4	△8~10	2~4	2	0~16	0~4	30~45		
11	琉球大学	17	8~26	0~8	0~8	8~14	2~3	0~4	0~21		28~53		
		21	○14~26	○0~12	0~8	6~16	0~4	0~4	0~21		20~47		

このように、平成 17 年度から 4 年経過した 21 年度において、教養教育カリキュラムの修正が多くの大学で行われている。これは各大学ともに教養教育の充実を目的として、何らかの工夫を加えようとしていることを示していると考えられる。また、各大学の教養教育の担当形態が履修の手引などでは分からないため、電話等で

の問合せを行ったが、その形態は各大学で大きく異なっている。それがどのようにカリキュラムの変更に影響を与えたのかは明確にすることができなかった。言えることは、各大学の教養教育についての考え方は、目的・目標の部分では非常によく似たことを掲げているが、その内容や実施形態は、各大学の歴史とも絡み、それ

ぞれ独自のシステムが構築されているようである。これから学士力の保証の観点から、各大学において教養教育の見直しが進むものと考えられるが、全国的に統一した形でそれが行われるとは考えにくい。この意味では長崎大学においても、大学の掲げる理念達成のために、教養教育をどのように位置づけるか、また、それをいかに学生の視点から構築できるかが鍵になると考えられる。

5. おわりに

全国の大学の教養教育の単位数や科目構成については把握することができた。次の課題はそれらがどのような意図でなされたかについての解明である。ただ、この点については明確な資料が少ないため、長崎大学の経緯から類推することになると考えている。

大学がエリート型からユニバーサル型へ変化するにしたがって、大学教育の出発点となる教養教育は、現在以上に重要性を増すと考えられる。そして従来のような教員サイドからのカリキュラム編成ではなく、学生の視点を取り入れたカリキュラムも編成されなければならないと考えている。この視点から教養教育をとらえ研

究することも必要となる。

*本研究の一部は、平成17・18年度長崎大学大学教育機能開発センタープロジェクトとしてなされたものである。また平成21年度の調査にあたっては、長崎大学学生支援部教育支援課全学教育班の多大な協力を得て行われた。

参考文献

- 1) 天野郁夫『大学変革の時代』東京大学出版会、1994.
- 2) E. アシュビー『誰でも何でも学べる大学』玉川大学出版部、1999.
- 3) 潮木守一『世界の大学危機；新しい大学像を求めて』中央公論新社、2004.
- 4) マーチン・トロウ『高学歴社会の大学；エリートからマスへ』東京大学出版会、1976.
- 5) M. トロウ『高度情報社会の大学；マスからユニバーサルへ』玉川大学出版部、2000.
- 6) S. ロスブラット『教養教育の系譜；アメリカ高等教育にみる専門主義との葛藤』玉川大学出版部、1999.
- 7) 市川昭午『未来形の大学』玉川大学出版部、2001.

¹ 平成17年度：北海道大学『全学教育科目実施の手引（教職員用）』学務部、東京大学『履修の手引き』教養学部、名古屋大学『全学教育科目履修の手引』名古屋大学、京都大学『全学共通科目履修の手引き』高等教育研究開発推進機構、大阪大学『全学共通教育科目履修の手引』大阪大学、九州大学『全学教育科目履修要項』全学教育機構、新潟大学、コピー資料、千葉大学『Guidance2005』普遍教育運営専門部会、金沢大学『教養的科目履修案内』共通教育機構、長崎大学『全学教育学生便覧』教務委員会、熊本大学『教養教育の案内』教養教育実施機構、茨城大学『教養科目履修案内』大学教育研究開発センター、信州大学『共通教育授業の手引き（授業担当教員用）』高等教育システムセンター、静岡大学『全学共通科目履修案内』大学教育センター、岐阜大学『全学共通教育履修案内』岐阜大学、三重大学『共通教育履修案内』三重大学、鳥取大学『全学共通科

目履修案内』教育総合センター、徳島大学『全学共通教育履修の手引』全学共通教育センター、高知大学『履修案内；共通教育編』共通教育委員会、佐賀大学『教養教育科目の授業概要』教養教育運営機構、鹿児島大学『共通教育履修案内』教育センター、琉球大学『学生便覧』琉球大学。

平成21年度：北海道大学『全学教育科目実施の手引（教職員用）』学務部、東京大学『履修の手引き』教養学部、名古屋大学『全学教育科目履修の手引』名古屋大学、京都大学『全学共通科目履修の手引き』高等教育研究開発推進機構、大阪大学『全学共通教育科目履修の手引』大阪大学、九州大学『全学教育科目履修要項』高等教育機構、新潟大学『履修ガイド』学務部教務科、千葉大学『Guidance2009』普遍教育センター、金沢大学『共通教育科目履修案内』共通教育機構、長崎大学『全学教育学生便覧』教務委員会、熊本大学『教養教育の案内』教養教育実施

機構、茨城大学『教養科目履修案内』大学教育センター、信州大学『共通教育履修案内』全学教育機構、静岡大学『全学教育科目履修案内』大学教育センター、岐阜大学『全学共通教育履修案内・授業案内』教養教育推進センター、三重大学『共通教育履修案内』三重大学、鳥取大学『全学共通科目履修案内』教育センター、徳島大学『全学共通教育履修の手引』全学共通教育センター、高知大学『履修案内；共通教育編』共通教育実施機構会議、佐賀大学『教養教育科目等の授業概要』教養教育運営機構、鹿児島大学『共通教育履修案内』教育センター、琉球大学『学生便覧』琉球大学。

² 名古屋大学『全学教育科目履修の手引』pp.3、京都大学『全学共通科目履修の手引き』pp.4、大阪大学『全学共通教育科目履修の手引』pp.1、九州大学『全学教育科目履修要項』pp.0、新潟大学『履修ガイド』pp.1、千葉大学『Guidance2009』pp.3、金沢大学『共通教育科目履修案内』pp.7、長崎大学『全学教育学生便覧』pp.0、熊本大学『教養教育の案内』pp.9、岐阜大学『全学共通教育履修案内・授業案内』pp.1、信州大学『共通教育履修案内』pp.17-18、徳島大学『全学共通教育履修の手引』pp.1、佐賀大学『教養教育科目等の授業概要』pp.1、鹿児島大学『共通教育履修案内』pp.1-3。